

コ ラ ム

「きのうきょう」



この桜を見ると入学式を思い出します

# 男子生徒がやってきた

文&写真 学生記者 長塚優佳 (文学部1年)

私は、中央大学附属横浜高等学校という女子校出身である。きっと「中央大学の附属校に女子校があるのか」と驚くだろう。正確には「元」女子校だ。

現在は高校3年生が女子のみの学年で、高2から中1が男女共学である。女子校の名残も、もうすぐ消えてしまう。

在校期間を振り返って「激動の学校生活だったな」と思うときがある。原因は言うまでもなく、中央大学の附属校になったからだ。

中学が男女共学となり、新校舎へ移転、2013年には校名が変更された。校舎は以前より良くなった点もあれば、融通が利かなくなったところもある。そのことで文句を言っていた時期もある。

男子が中1で入学してきたのは私が高1にあがった2012年4月。校舎内に男子がいることに違和感があったのをよく覚えている。

男女共学となってから、私たちの生活は少しずつではあるが変化した。女子更衣室というものが出来上がり、教室で着替えることは原則禁止。生徒会や委員会に男子が加わり、サッカー一部、野球部な

ど今まではなかった部活動ができた。優しかった女性の先生は、注意のしすぎなのか口調が強くなってしまった。

何よりも変わったと感じたのは生徒手帳の生徒規約に『ひげを伸ばさないこと』という一文が突如表れたことである。

2014年4月には高校が男女共学になった。なかなか忙しい学校生活であったが、楽しい思い出もたくさんある。なかでも女子校として卒業できたことをうれしく思う。この学校の出身者で良かった、と胸を張って言える。

中央大学附属横浜中学校・高等学校はほかの附属校3校に比べれば附属歴も浅く、横浜に附属校があることすら知らない人のほうが多いのではないかと思う。

附属校、男女共学への変化の過程をつぶさに見てきたのは得難い経験だ。このことを少しでも伝えたくて記事を書いた。この記事がたくさんの人に読んでもらい、横浜の附属校の存在を多くの方に知ってもらえたら、卒業生としてこれほどうれしいことはない。いつかこの中大広報誌HAKUMON Chuoで母校の記事にしたいものである。